

# 行財政改革の取り組み

# 「山梨県総合計画」政策別実施状況

## 行財政改革の取り組み

取組	1	スマート自治体の構築と課題解決のためのチャレンジの実践	計画掲載施策数	4
<p><b>【政策の基本的な考え方】</b></p> <p>本県を取り巻く環境の変化や、多様化・複雑化する行政ニーズに対応していくためには、県民ニーズを的確に捉え、柔軟に対応できる県庁であり続ける必要があります。</p> <p>このため、AI や RPA * などの最新の ICT を最大限に活用するスマート自治体を構築し、業務の効率化を進めるとともに、県庁の職員一人ひとりが、日常の業務の中で、現場における様々な声をしっかりと把握するとともに、知事と県民の意見交換の場の設定や、国政・県政・市町村政、それぞれの担い手の間のコミュニケーションの活性化等により、現在の課題認識や新たな施策の実施のための意見交換を積極的に行っていきます。</p> <p>このようにして把握した様々な行政ニーズに対して、事業の PDCA サイクルに基づいた継続的な見直しを進めるとともに、国の施策の動向なども把握しながら、県庁全体で新しい施策に積極的にチャレンジしていきます。</p>				
令和2年度の主な取り組み状況	項 目		頁	担当部局
	○ 県民と知事との対話の実施		P.138	知事政策局
	○ 戦略的広報実施に向けた体制の確立・推進		P.138	知事政策局
	○ 戦略的、機動的な提案・要望活動等の実施		P.138	知事政策局
	○ スマート自治体への転換		P.138	総務部
事業費	施策・事業の実施に要した事業費（本年度までの実績額）		642 百万円	
	前年度までの事業費		312 百万円	
	本年度の事業費		330 百万円	

# 主要な施策の成果

(予算科目 単位：千円)

<b>施 策 名</b> <b>【担当課名等】</b>	<b>予 算 科 目</b> (予算現額) 決 算 額 [翌年度繰越額]	<b>施 策 ・ 事 業 の 概 要 及 び 成 果</b>
県民と知事との対話の実施  <b>【広聴広報グループ】</b> ①	広 報 費 ( 808) 124  ①	山梨が未来に向かって発展していくためには、県民の声を丁寧に聞く中で施策に取り組んでいく必要があるため、知事が直接、県民と意見交換を実施した。 ①県民対話「知事と語る やまなしづくり」の実施 4回
戦略的広報実施に向けた体制の確立・推進  <b>【広聴広報グループ】</b> ①②③	広 報 費 ( 314,296) 313,321  ①②③  諸 費 ( 5,679) 5,627	県民の県政への理解促進、参加意識の醸成に向け、適時・適切な広報を機動的に展開するため、部局間連携により、全庁一体となった戦略的広報の実施体制を整備するとともに、広報関係事業の見直しを行い、新たな体系を構築した。 ①戦略的広報会議の開催 1回 ②戦略的広報セミナー戦略的広報セミナーの開催 6回 ③戦略的広報に関する相談件数 18件
戦略的、機動的な提案・要望活動等の実施  <b>【政策企画グループ】</b> ①	企 画 総 務 費 ( 469) 333  ①	県の施策に、国の力を最大限活用していくため、課題に応じて、制度改正や財政支援の実現のための国への提案・要望活動などを戦略的、機動的に実施した。 これにより、防災・減災、国土強靱化に関する取り組みの充実・強化が図られるなど、本県の円滑な行財政運営に寄与した。 ①提案要望件数 54件
スマート自治体への転換  <b>【行政経営管理課】</b> <b>【情報政策課】</b> ①②③④⑤	情 報 管 理 費 ( 10,860) 9,637  ③④⑤	県民ニーズを的確に捉え、柔軟に対応できる県庁であり続けるため、AIやRPAなどの最新のICTを最大限に活用するなど、スマート自治体の構築を進めた。 これにより、県民の利便性の向上と自治体業務の効率化を図った。 ①行政手続きのオンライン化 25手続 ②オープンデータ 1,177件登録 ③AIによる音声認識技術を活用した議事録作成支援システム 1,311回利用 ④AIによる文字認識技術を活用したOCRを導入、試験運用 ⑤RPAによる業務改善 16業務

# 「山梨県総合計画」政策別実施状況

## 行財政改革の取り組み

取組	2	持続可能な行財政運営	計画掲載施策数	5
<p><b>【政策の基本的な考え方】</b></p> <p>課題解決に向けたチャレンジに取り組んで行くためには、それを支える持続可能な行財政運営を行っていく必要があります。</p> <p>このため、新たな課題に柔軟に対応するための人材育成・組織体制づくりに取り組むとともに、職員の創意工夫を促し、働き方改革に取り組めます。</p> <p>また、取り組みの裏付けとなる財源等の確保については、税込確保対策等による独自財源の確保はもとより、国の力を最大限活用するとともに、民間企業等のノウハウを活用するための取り組みを進めます。</p>				
令和2年度の主な取り組み状況	項 目		頁	担当部局
	○ 行政評価に基づいた施策・事業の見直し		P.140	知事政策局
	○ 公共事業等評価の実施		P.140	県土整備部
	○ 人材の育成		P.140	総務部
	○ 財政運営		P.141	総務部
	○ 適正な会計事務の確保		P.141	出納局
事業費	施策・事業の実施に要した事業費（本年度までの実績額）		3百万円	
	前年度までの事業費		2百万円	
	本年度の事業費		1百万円	

# 主要な施策の成果

(予算科目 単位：千円)

<b>施 策 名</b> <b>【担当課名等】</b>	<b>予 算 科 目</b> (予算現額) 決 算 額 [翌年度繰越額]	<b>施 策 ・ 事 業 の 概 要 及 び 成 果</b>
行政評価に基づいた施策・事業の見直し  <b>【政策企画グループ】</b> ①	———	質の高い行政サービスの提供や持続可能な行政運営、県が有する限られた財源・人的資源の有効活用を図るため、全庁を挙げて事務事業の見直しに取り組んだ。 ①事務事業総点検対象事業数 1,719 事業 うち廃止 204 事業 改善 347 事業
公共事業等評価の実施  <b>【県土整備総務課】</b> ①②	一 般 管 理 費 ( 2,046 ) 713  ①②	公共事業・県単独公共事業について、事業実施の是非・継続の是非・改善措置等を決定するため、事業の各段階（予算計上前・事業着手後・事業完了後）において、事業の妥当性や進捗状況等の評価を行い、より効果的・効率的な事業の実施を図った。 また、公共事業等の評価に対する客観性や透明性を確保するため、外部評価を実施した。 これにより、真に必要性が高く、より大きな効果が早期に得られる事業の効率的な実施に寄与した。 ①公共事業評価委員会（外部評価）の開催 5回 ②公共事業評価実施件数 事前評価 74 件（内外部評価対象外 70 件）  再 評 価 15 件 事後評価 5 件
人材の育成  <b>【人 事 課】</b> ①②	———	令和元年度に策定した「山梨県職員基本理念」及び同年度に改定した「人材育成と人事管理に関する基本方針」に基づき、職員研修の充実や人事評価制度の効果的な活用など人材育成の取り組みを進めた。 これにより、課題解決や事業実施に当たり、前例やルールにこだわらず、創意工夫を凝らして前向きにチャレンジする職員の育成を推進した。 <b>【山梨県職員基本理念】</b> ①組織・職員のあるべき姿を定義し、全職員が共有すべき新たな価値観を明文化。（「組織として取り組むこと」、「全職員に求められること（行動特性）」、「管理監督者の役割」が主な内容） <b>【人材育成と人事管理の基本方針】</b> ②基本理念に合致した人材を中長期的に育成し、こうした人材を適切に管理・処遇するための各種施策の方向性を提示

施策名 【担当課名等】	予算科目 (予算現額) 決算額 [翌年度繰越額]	施策・事業の概要及び成果						
財政運営  【財政課】	——	<p>徹底した歳出の見直しによる財源の重点的、効率的な配分を行うとともに、国からの補助金や有利な交付税措置のある県債を積極的に活用することにより、県負担を極力抑制する財政運営に努めた。</p> <p>具体的には、令和3年度当初予算編成において、社会情勢の変化や目的の達成状況などの観点から事務事業や県単独補助金377件について、廃止や縮小、統合等の見直しを行い、906,561千円を削減した。</p> <p>また、公共事業においては、従来の公共事業等債と比較して有利な交付税措置のある防災・減災・国土強靱化緊急対策事業債等を積極的に活用すること等とし、実質的な県負担を伴う県債等残高の抑制を図った。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・実質的な県負担を伴う県債等残高             <table style="margin-left: 20px;"> <tr> <td>令和元年度末</td> <td>5,025億円 (5,009億円)</td> </tr> <tr> <td>令和2年度末</td> <td>5,053億円 (4,993億円)</td> </tr> </table> <p>※括弧内は、防災・減災分を除いた額</p> </li> <li>・起債額（臨時財政対策債及び減収補填債を除いた同意額）のうち、将来、交付税で措置される額の割合             <table style="margin-left: 20px;"> <tr> <td>令和2年度</td> <td>40% (平成28～30年度の平均は30%)</td> </tr> </table> </li> </ul>	令和元年度末	5,025億円 (5,009億円)	令和2年度末	5,053億円 (4,993億円)	令和2年度	40% (平成28～30年度の平均は30%)
令和元年度末	5,025億円 (5,009億円)							
令和2年度末	5,053億円 (4,993億円)							
令和2年度	40% (平成28～30年度の平均は30%)							
適正な会計事務の確保  【出：会計課】 【管理課】 ①②	——	<p>県の会計事務に対する県民の信頼性を高めるため、適正で的確な会計事務を進めるとともに、県の公金を安全かつ効率的に管理・運用した。</p> <p>①各種研修会等の実施</p> <table style="margin-left: 20px;"> <tr> <td>総括課長補佐、出先次長対象</td> <td>1回 (資料配付のみ)</td> </tr> <tr> <td>会計事務担当者対象</td> <td>4回 (資料配付のみ)</td> </tr> <tr> <td>新採用職員対象</td> <td>令和2年4月、5月</td> </tr> </table> <p>②かいの会計検査及び指導の実施 47所属</p>	総括課長補佐、出先次長対象	1回 (資料配付のみ)	会計事務担当者対象	4回 (資料配付のみ)	新採用職員対象	令和2年4月、5月
総括課長補佐、出先次長対象	1回 (資料配付のみ)							
会計事務担当者対象	4回 (資料配付のみ)							
新採用職員対象	令和2年4月、5月							